

第3期須恵町子ども・子育て支援事業計画に係る意見募集(パブリックコメント)の実施結果について

提出期間	令和7年2月17日(月)～2月28日(金)
提出者数	3名(メール2名・持参1名)
意見数	6件

No.	ご意見の概要	ご意見に対する町の考え方
1	青少年アンビシャス応援団の活動について ①須恵町に事業所がある企業が何か応援できることはないでしょうか。「地域企業の子供たち応援参画」などを検討してはいかがでしょうか。	日頃から、本町の子どもたちのために様々な活動・ご支援をいただきありがとうございます。また、企業様から、このような応援のお申し出をいただき、大変ありがとうございます。今後の具体的な活動については、別途ご相談させていただきたく存じます。
2	中学校の給食実施・学校給食費の無償化について ②相対的貧困が多いという結果があるにもかかわらず、中学校の給食制度について記載がない。3つの小学校にそれぞれ給食施設を設置するよりも、一つのセンターを設置し、幼児園・高齢者の配食サービスと共同運営することを考慮したほうが良い。早急にセンター建設が難しくても、給食費用の無償化によって補助があるはずなので、たとえば福岡市や粕屋町などのセンターから給食を配膳してもらえそうな協力関係を結ぶべきだ。 ③中学生時期の栄養は成長するにあたり、とても重要です。このため、給食の開始と給食費の無償化を願います。現状は小学校は自校給食、中学校から家庭弁当となっています。第三期子ども・子育て支援事業計画(案)によりますと、p.12より女性の就業率は中学生子育て中の女性を25歳から54歳までと広くとってみても60%を超える高い水準です。まだまだ女性が家事を担うことの多い中で、負担も多く、専業主婦でさえ、バランスのとれたお弁当を作ることは難しいです。このため、中学校も小学校同様に給食の実施を願います。(中略)また、貧困世帯や相対的貧困世帯にも目を向け、給食無償化が実現すると、実質的に子育て世帯に6000円ほどの援助となります。現金や商品券を渡す方法よりも、直接子供へ届く支援になると思います。	ご意見をいただきありがとうございます。 本町では、中学校の給食については様々な協議を経て、平成27年5月から選択制弁当給食(「ランチサービス」:家庭弁当かランチサービスの弁当かを選択できる制度)を実施しており、現在3割弱の方が利用されている状況です。また、令和5年度には町内の小学5・6年生を対象に「中学校での昼食についてのアンケート調査」(広報すえ 令和6年4月号に結果掲載)を行いました。アンケート調査結果は、家庭での手作り弁当の選択が最も多くなりましたが、両親共働きで弁当を作ることが困難なご家庭もあることから、今後もランチサービス事業を継続していくことになりました。今後の中学校給食の在り方については、より適切な運営ができるよう検討を続けて参ります。また、学校給食無償化については、国でも議論が行われているところです。国の動向を注視しながら検討して参ります。
3	子どもたちへの学習指導の仕組みづくりについて ④町内の有資格者などを把握し、子どもたちに学習指導できるように仕組みを構築していく必要がある。(中略)久山町などでは行政が生徒たちの学習を支援している。こどもたちがいるから町の活性化や魅力が広がっていくものだが、こどもたちを蔑ろにして町の成長はない。余計な(大人の自己満足のための)行事や施策で無駄な費用を使うのではなく、真にこどもたちのためになる方策を考えてほしい。	ご意見をいただきありがとうございます。 いただいたご意見につきましては、参考とさせていただきます。関係部署と情報共有いたします。また、本町では須恵町青少年アンビシャス応援団(須恵町の企業有志で組織された青少年育成団体)が、小学生を対象とした無料学習支援塾「マナビバ」において、子どもたちへ学習の場を提供しています。
4	病児保育の拡充について ⑤現状、須恵町に病児保育施設はなく、宇美町・志免町と合同で定員3名の枠しかない状態です。このため、須恵町に病児保育施設の設置を願います。定員が3名のみの病児保育では圧倒的に不足しています。特に子どもが小さい時は集団保育に病気はつきものです。体調の悪い時くらい、親がそばにいるべきという意見もあるでしょう。熱が出て一日目、呼び出しがあり急に休みます。二日目も休みを取ったとして三日目、子どもがまだ集団保育できるような体調ではないときが多々あります。そんなとき、回復期を過ごす場所として、病児保育が必要です。(中略)また、町外の例えば福岡市にある病児保育施設を利用した場合、町の病児保育医療機関「おかべ小児科クリニック」では無償化対象ですが、2000円の費用がかかります。利用は福岡市民優先のため、予約はできず、当日8:30に並び、空があれば入れる運用となっています。これでは当日朝まで、出勤できるかわからず、女性の社会進出の妨げとなっています。このように近隣の市町村に病児保育があっても実質的に利用できない環境を鑑みても、須恵町に病児保育施設ができることを望みます。	ご意見をいただきありがとうございます。 仕事と子育てを両立している保護者の方々の負担を軽減するよう、病児保育の利用状況等を注視しながらサービス向上に努めて参ります。
5	こども医療費の助成拡大について ⑥福岡市と同様の医療費の助成対象の拡大を希望します。令和6年4月1日より、医療費の拡充が須恵町でもなされました。これはとてもありがたいことで、本当に感謝しております。医療費助成を拡充することで、毎年テレビなどでも取り上げられる「住みやすさランキング」や「子育てしやすい街ランキング」に上がる可能性があると思います。(中略)ランキングでは、こども医療費助成・公的補助制度が充実しているかは二倍の点数がつけられるほど、重要な指標となっています。(中略)糟屋郡内の助成金は横並びでできたので、ここで須恵町が福岡市と同じ水準にまで上げることができれば、移住者が増える可能性が広がりますし、ひいては住民税の税收アップが見込まれます。福岡市と同じように、医療費の拡充をお願いします。直接子どもへ届く助成金となりますので使途不明にならず、また多子世帯を助けることのできる補助金だと考えます。	ご意見をいただきありがとうございます。 子ども医療費助成事業は、こどもの医療費の一部を助成することにより、疾病の早期発見と治療を促進し、こどもの保健の向上と福祉の増進を図るために実施しております。子育て世帯を経済的に支援し、須恵町で安心して子どもを産み育てていただけるように令和6年4月から中学3年生までの助成内容を拡充して実施しているところです。今後の事業につきましても、医療機関や町財政、近隣市町等関係機関との連携調整を図りながら、子育て支援の充実に努めて参ります。